

第一章 「子宮頸がんワクチン」に見る利益相反

その⑥ 暗躍したロビイスト

野中大樹

ロビイストもしくはロビー活動というものは、およそ映画の世界のことだと、それまでは思っていました。

だから、子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）が定期接種化される過程でロビイストが介在していたという話を初めて耳にしたとき、ロビイストとはいったいどういう人種なのか。どんな人が、どういった動き・仕事をしてみせるのか、記者として、興味関心が沸きたったのを覚えています。

すぐに取材をはじめました。HPVワクチンの承認、定期接種化にむけて重要な役割を果たしたと思われる国会議員らに、ロビイストとの接触があったかどうか、あったとしたら、そこでどんな話を聞き、どう行動に移したのか、尋ねてまわったのです。しかし、なかなか手応えは得られませんでした。

民主党政権時代の厚労政務三役経験者ですら、「そういえばあの会合に、その方（ロビイスト）いたなあ」「たしかにあの勉強会の席にいたのは覚えている。けどあの方、そんなに力を持っているの？」といった程度なのです。

グラクソ・スミスクライン（GSK）社製のサーバリックス、MSD社のガータシルの販売が承認されたとき、厚生労働大臣だった長妻昭議員は、ロビイストの存在すら知らないようでした。

ふたつのことが見えてきました。ひとつは、ロビイストは民主党にも働きかけていましたが、より強く働きかけていたのは、民主党ではなく自民党、公明党の議員たちだったということ。それはつまるところ、ロビー活動は二〇〇九年の政権交代以前から始まっていたことを意味しますし、法改正や

政策実現、利害調整のイロハを知悉しているのは民主党より自民党なのだと、ロビイストが踏んでいたことも物語っているのかもしれない。

これがふたつ目になるのですが、ロビー活動、最近の言い方でいうと、「パブリック・アフェアーズ戦略」というのは、ひとつの政策実現のために議員や官僚に陳情するだけでなく、メディア、市民運動家など、さまざまな立場の人に働きかけるため、推進派の当人たちにも、その戦略の渦中にあることを気づかせないのです。

アメリカでは、ブッシュ前大統領を誕生させたといわれる共和党系の大物ロビイストが映画の主人公にもなるなど、その存在は大きく、社会的な地位も高く、目立ちます。依頼者である特定の企業や業界——たとえば防衛産業界、原子力産業界、製薬産業界など——の代弁者として、法改正や政策実現のために動き、高い報酬をえます。その傍若無人な振舞いは批判の対象にも

第1章「子宮頸部がんワクチン」に見る利益相反

なりました。

そうしたことから、ロビー活動が日本にビジネスとして移入する際には、アメリカ型のロビイングを反面教師とした節があります。すなわち、露骨な利益誘導型ではなく、市民感覚に根ざし、公益性にも叶い、社会の発展につながるようなロビイングです。

その新しいかたちこそが、前述したパブリック・アフェアーズ戦略です。単に官僚や議員に陳情するだけではなく、議員連盟の設立を働きかけたり、シンポジウムを開かせたり、メディア関係者にことの「重要性」を説き、記事を書かせたりします。このやり方は、PR（パブリック・リレーション）会社の仕事とも通底しています。

ただし、新聞やテレビ、雑誌に、その記者の記事(番組)が出たとき、読者(視聴者)はそれがパブリック・アフェアーズ戦略の上ののっかった記事だとは認識できません。ここが、新聞や雑誌ではつきりと「広告」であることを見せる

広告代理店と、ロビー会社およびPR会社の違うところです。社会からの「見え方」が、似ているようで、違うのです。GSK社がロビイングを委託したロビー企業は、まさしく(株)新日本パブリック・アフェアーズ(新日本PA)という名でした。

利益相反の観点から見た場合、ロビイストにはどんな責任があると考えられるでしょうか。私の中で、まだ結論は出ていません。言えるのは、企業から報酬をえて動くロビイストは、自分の仕事にどれだけ責任を持てるのか、HPVワクチンを打ったことで重篤症状を呈した人がいる事実、どこまで誠実に向き合うのか、という点だと思います。

その意味でも、また、ロビイストの介入をオープンにする意味でも、重要な政策決定にたずさわったロビイストは、ジャーナリストの取材に応じるべきだと私は考えます。

新日本PAの小原泰社長は、私の取

材依頼に応じました。重篤症状の人がいることも、小原氏は知っています。その上で小原氏は、HPVワクチンの必要性を説きました。

一方で、取材に応じないロビイストもいます。たとえば、ガータシルを製造販売するMSD社の親会社メルクのロビイングを請け負う実力派ロビイスト、ロイ・ファウチ氏です。ヘルスケア大手ジョンソン・エンド・ジョンソングループと日本看護協会が創設した「ヘルシー・ソサエティ賞」の事務局長を担い、日本の政界、経済界に太いパイを持つ人物です。

共和党系ロビイストのファウチ氏が永田町や霞ヶ関で、どんな仕事をしたのか、しているのか。メルク社から、どの程度の報酬をうけたのか。明らかにすべきことですし、ジャーナリストは、そこを明らかにする努力(取材)を続けるべきだと思います。